

僕は大分県由布市(旧湯布院)の生まれです。離れていてもできることを考え、熊本大分震災チャリティ(東京品川)に参加し支援しました。実は、僕は大学から熊本に住んでいました。妻と子供2人も熊本生まれということもあり、時々熊本にも行くことがあります。今回の震災では、熊本と大分が被害にあってしまいました。離れているのですが、心配で物資を送ったり、義捐金を出したりとできることをコツコツとやっています。高校まで大分にいた僕は、大分上野丘高校の卒業で、現在在京大分上野丘高校同窓会の事務局長をしています。在京の同窓会の事務局はかなり大変で、希望する人はいないのが現状です。母校との連絡やOBとの



大分上野丘高校同窓生全員で輪になって校歌斉唱。年齢を重ねた歌声もまた良し。

連絡(関東に7000名いる)、新年会の裏方、年次同窓会の運営、維持会費などお金の管理、同窓会名簿などのメンテナンス。同窓会や母校の情報提供として、メール配信やHPやFacebookの更新など、一年中やることのあるのです。同窓会や母校との連絡が密なため、ビジネス以外での人脈が広がることはメリットです。また、90歳代の先輩から18歳の大学生まで幅広い人と関係を持てるのはとても楽しいです。常にふるさとを思いながら...

株式会社キーストーン 取締役 花田 敬

FP的視点で人生設計を考える

～こんな「法人設立」してませんか?(相続対策編)～

相続対策、資産形成策として不動産オーナーの方々が用いる手法の一つに「法人設立」があります。その目的は大きく3つです。①不動産オーナー(法人含む)に集中する「所得の分散」②分けにくい不動産の「相続時の分割対策」③資産維持の為に「高齢化対策」。

しかし、私どもで相談を受ける困りごとの多くがこれらに伴うものです。なぜでしょう?それは、「所得の分散」に重点を置くあまり、長期的対策(二次、三次相続まで)になっていなかったり、目先の「税金」に目を奪われ、全体を見通せなくなってしまったため。つまり、①のために②「相続時の分割対策」③「高齢化対策」が疎かになるか、全く機能していないからなのです。

よかれと思った対策を「争族」の種にしない、不動産自体の価値を下げてしまわないためにどうすればいいのか。1つは我々のような専門家に「法人」の「ヒト」と「モノ」を整理してもらう。もう1つは法務・税務上のリスクを回避した具体的なアドバイスと実行支援をしてもらう。この2つは不可欠です。

最低限、上記「3つの目的」は達成できるようにしていきたいものですね。(文責 津曲)



セミナー研修講師としても精力的に活動しています

弊社はFP事務所として、おかげさまで設立11年を迎えましたが、ここ数年はセミナーや研修の講師活動に力を入れております。一般の方々の相続や事業承継への関心の高まりを受け、その解決策をセミナーという形でお伝えできないかという問題意識から始めたものですが、今では様々な大手企業や団体からも講師依頼をいただくようになりました。

その講師経験を通して私が強く感じていることは、相続・事業承継問題に悩みを抱えている方々がたくさんいるにも関わらず、問題解決をしてくれる窓口が圧倒的に少ないということです。弊社が担当するセミナーからの個別相談だけでは、お役に立てる件数が限られてしまい、すべての方の悩みを解決することなど到底叶うものではありません。

そこで2年ほど前から始めたのが、FP向けに相続・事業承継に関するコンサルティング技術を体系立てて教えるコンサルタント養成講座。既へのべ660名超の卒業生を輩出し、北海道から沖縄まで全国の多くのメンバーがセミナーを開催し、FPコンサルティングを展開しています。

相続や事業承継の相談相手として、税理士などの士業の先生を思い浮かべる方も多いでしょう。しかし私は「ご相談者の人生並びに事業のライフプランをどう描くか」に凝縮されると思っています。それをファイナンスの面でどう裏付けるか、そしてご相談者の人生に感情面も含めどのように寄り添っていけるか。そこに尽きます。

今後も弊社では、皆様のお客様の人生の伴走者として精進してまいりますので、何卒ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

株式会社キーストーン・株式会社キーストーンFPコンサルタンツ
代表取締役 石野 毅



新メンバー紹介

みなさん、こんにちは★ 河村あい子と申します♪

5月1日より新しくキーストーンの仲間に加わりました、ファイナンシャルプランナーの河村あい子です。広告代理店の営業から外資系金融機関に転職、さらにマネーセミナーの講師として独立後、数多くのセミナーを行ってまいりました。「女性のためのマネーセミナー」「ママのためのマネーセミナー」「愛され年金セミナー」などなど。自身を「愛され年金マイスター」として自負し、これまでみなさまの年金や貯蓄づくりに貢献。『愛され年金』という自分で考えた造語を商標登録するまでに、セミナー講師として成長致しました☆キーストーンでは、相続のプロとして更なるスキルアップを目指していきます!どうぞ、よろしくお願いいたします♪



お客様紹介

印刷業を超える大阪の印刷会社、SEIUNDO様

～狭小な市場を自ら創り、「専門性」「独自性」にこだわる優良企業です～

今回ご紹介するのは、私が十数年来のお付き合いをさせていただいている(株)SEIUNDOの田畑良一社長。ネット化が進み、印刷業界は非常に厳しい環境下にあります。SEIUNDO様は独自の強みを発揮され、業績は好調に推移。今春には大阪北浜の一等地に本社を移転されるほど勢いのある企業です。



右が田畑良一社長

強みは、何とんでも独自開発したオリジナル商品。例えば、株主総会の受付で渋滞解消に威力を発揮する「ワンタッチ入場票」は特許を取得。株主総会に1000名以上が出席する上場企業の6割以上が指名買いするほどの人気で、我が国を代表する著名企業をはじめ毎年40～50社ずつ新規採用が続いています。

超のつく大企業を含めこれだけの数の上場企業が、大阪のいち中小企業(失礼!)であるSEIUNDO様を毎年指名する流れを作ったのは、3代目である田畑社長の強い想いがあったから。「お客様から『買わせてほしい』と言ってもらえるような独自商品を開発し、自社の強みにしていこう。」そんな社長の気概が、SEIUNDO様の原動力になっています。

私は数年前から事業承継対策の相談業務に携わり、事業承継が無事に済んだ後は、田畑社長の経営全般についての相談役として、月に一度面談をさせていた



「景観を損なわず、隔てず、導き、社員を繋ぐ」を実現した楕円型のカウンター(空間設計:アトリエm 守谷昌紀氏)

だいています。

相談役と言っても、私は専ら話を聴き、適時相槌を打ちながら質問を投げかけ、社長の考えの整理を促す役割をしているだけで、最終的に田畑社長がすべての意思決定をしていくのですが。

そんなSEIUNDO様が次なるヒット商品として開発・販売推進しているのが、「カタログメモ帳」。台紙部分の表裏4面を企業広告に使えるという印刷会社ならではのアイデアが詰まっており、企業宣伝や大学のオープンキャンパス用ノベルティとしてなど、ご採用件数が増えています。

弊社でも「相続のキーストーン」として制作し、同送させていただきました。気軽に使えるメモ帳として、ぜひお手元にてご活用くださいませ。(文責 石野)



石野さんには、公私にわたるライフプランのはばすべを一緒に描いていただいています。会計士や弁護士など当社の盤石のブレーン陣も、もとを辿ればほとんどが石野さん人脈の方々。月例面談では、私の人生観をご理解くださったうえで当社の現状や未来像を共有し、創業社長としての豊富なご経験と的を射たコーチング技術で、つい空回りしがちな私の思考の整理を促してくださっています。人生の、そして社長業の大先輩として、これからの確かなご助言と熱いご指導をお願いいたします。

株式会社SEIUNDO 代表取締役 田畑 良一

熊本地震とその後の支援活動

ワイズメンズクラブ国際協会西日本区 次期理事 岩本 悟(熊本にし)



今回登場いただいたのは、熊本でFP事務所を営んでいる岩本悟氏。岩本氏は、石野が11年前に立ち上げたFPの勉強会組織「キーストーンアライアンス」の設立当初からのメンバーであり、現在もFP業務におけるパートナーとして、弊社と様々な提携を行っています。その一方で、永年にわたり地元熊本のための活動を行っています。自身も被災者でありながら、いち早く支援に動いた岩本氏の現場レポートをお届けします。

熊本YMCAに見舞金の贈呈(右が筆者)

2016年4月14日夜と16日深夜に発生した巨大地震は、九州地方の歴史始まって以来と言われていいます。大きな特徴は①震度7という大地震が続いて発生した事②余震回数が約1,600回とずば抜けて多い事。これらに対する不安で一か月半経過した今でも車中泊をしている避難者が多くいます。

私は、ワイズメンズクラブという国際的な社会奉仕団体に25年前の37歳の時に入会しました。動機は、それまでの仕事一筋の立場から、社会に恩返し出来るような奉仕もしたいと考えたからです。7月からは理事というトップの重責を担う事になり、誠心誠意で奉仕させて頂く覚悟です。

ワイズメンズクラブと他の奉仕団体の違いは、YMCAと共に又、YMCAの奉仕活動を支援する事が大きな柱となっていることです。実は熊本YMCAは、益城町・御船町・大牟田市から大きな体育館・グラウンドを要する施設の管理を委託されていました。



避難所からの要望で生野菜、果物、ポット、消毒液等何回となく配達

今回の地震により、その施設が避難所として指定されました。益城は県下最大で2,000人 御船に300人が今でも避難されています。

私達ワイズメンは、地震後に対策会議を開き①被災者・避難所支援 ②熊本YMCA支援 ③被災したワイズメンの支援 ④国際保健協力市民の会との協働による避難所の長期的なメディカル&ウェルネスケアの実施 という4本の柱で支援活動を続けることを決めました。

ワイズメンズクラブ西日本区からの300万円の支援金をはじめ、フェイスブックで協力を呼びかけた結果、多数の方からの支援を頂きました。集まった支援金は現在約600万円。そのうち約300万円強をその目的に活用させて頂きました。皆様の温かいお気持ちに心より感謝申し上げます。

これから3年 又は5年と続くかと思えます。未永いご支援をよろしくお願い申し上げます。

※上記各種数字は2016年5月末時点のものです。



(ビフォー) 剥離した天井板

(アフター) 布天井は、ワイズメンズクラブ主導で約140名のボランティアが縫いあげて吊り上げました。約400人が入居予定。

(株)キーストーンでは、岩本氏の活動母体ワイズメンズクラブが支援している熊本YMCAへ寄付させていただきました。1日も早い熊本の復興を、社員一同心より祈念しております。